

5th Ver. Jan 13th 2010

基幹運動推進委員会_連研課題

(問12)お寺の活動を活発化するにはどうすればよいのでしょうか。

基礎資料 Ver. 5

滋賀組第11期連続研修会第12回研修

開催日：平成22年2月13日(土)

会 所：西 福 寺 様

連研担当相談員：正覚寺愚住 堅田 玄宥

「問い」そのものへの問い

「お寺の活動を活発にするには、どうすればよいのですか？」

でも、この問いかけは、限定的に捉えられがちです。

そこで、これは次のように  言い換えてみます。

日本を活性化するにはどうすればよいのでしょうか

私を活性化するにはどうすればよいのでしょうか

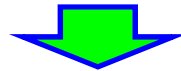
これによって、**問いが私のもの**になった筈です。

では、一緒に考えてみることに致しましょう。

日本の原状

Ref)産経新聞平成22年2月12日朝刊

- 平均寿命：男79.3歳、女86歳（平成20年）
- 若者の原状：Working Poor、Net Cafe Refugee、NEET→Not in employment, education or training



- そこで、Hope studies(希望学)が勃興するようになったのです
- これは、東京大学社会科学研究所の玄田有史教授(労働経済学)が中心となって進める法律・政治・経済・哲学等あらゆる分野に亘るプロジェクト(現在40名超)です。
- 中村尚史准教授(日本経営史)の見出した成果は次の通り
- 地域の希望の再生にとって**不可欠な三つの要素**
 - 地域に対する誇りを生み出すLocal Identity
 - 将来構想の共有
 - ネットワークの構築
- この三つの要素を生み出すKWは「**対話**」にあります。

まず浄土真宗のみ教えをおさらいします

- 親鸞聖人は「**帰命といふは、本願招喚の勅命である**」とおっしゃった(Ref「六字釈」註釈版聖典P170)。
- 称えれば、聞こえて下さる阿弥陀如来のお喚び声に呼び覚まされ、震え、感動し、座り直し、立ち上ってわが身に与えられた人生の白道を雄々しく辿りゆく道行を示して下さるみ教えであります。
- この道を「**往け**」との釈迦如来の発遣に勇気づけられ、西岸上より「**来たれ**」と喚び続けていて下さる阿弥陀如来の招喚の勅命に呼び覚まされて歩みゆく白道を示して下さるみ教えだったのです。
- これを和上様方は「**勅命の他に領解なし**」とおっしゃった。その心を、昔、お東の碩学一蓮院 秀存師は次のように歌われた。
声しあらば あやうからじな 火に水の
なかのほそみち 見ゆも見えずも

我々の活動の本質

希望の再生の要素にあてはめてみますと次のようになります。

1. Local Identity

連研を通して受講し、修了後は門徒推進員として活動できるという文化は宗門と地域が与えてくれた誇りある文化である。

2. 将来構想

如来様より他力の信心を賜って現生正定聚の道行を辿り、今生の命が終わる一刹那に浄土往生せしめられる。

3. ネットワーク

第11期連研のご縁がそのまま賜ったネットワークである。

4. お念仏を通しての如来様との日常対話は、人生究極の対話である。

われ称え われきくなれど なむあみだ

つれてゆくその 親の呼び声 (原口針水和上)

みほとけを 呼ぶわが声は みほとけの

われを喚びます みこゑなりけり (甲斐和里子女史)

寺院での組織活動

1. 日曜学校、ボーイスカウト、**キッズサンガ**
2. 仏青活動、仏婦活動、仏壮活動、
3. 念仏奉仕
4. 総代活動、役員運営会議
5. **連続研修、門徒推進員活動**
6. 社会福祉施設奉仕活動
7. 寺報の発行、離郷ご門徒通信、
8. ウェブサイト公開
9. 合祀墓法要
10. **寺院での葬儀** __例えば、厳粛且つ勿体ない葬儀を求め
てみますと 「葬儀の流れ」__、「費用対比(割愛)」__

寺院でのお聴聞を通しての活動は私を活性化させる

寺院での法要の数々

- 元旦会(修正会)
- ご正忌お通夜……………1月15日夜
- 初参法要……………1月16日昼
- 春秋彼岸会……………お彼岸
僧侶は、まず自らが頂戴した信心の中身を語っているだろうか
- 花祭り……………4月8日
- 降誕会(ごうたんえ)……………5月半ば
- 永代経……………6月半ば
- 歡喜会(かんぎえ、盆会)……………8月15日
- 報恩講……………10月末
- 成道会……………12月8日
- 除夜会……………大晦日

ご門徒のお家でのご法座

- 朝夕のお勤め

お内佛のお花は枯れたままになっていませんか？

祖父母の後ろ姿にお孫さんが導かれているだろうか？

- お逮夜参り
- 年忌法要
- 報恩講
- 自宅でお客僧を招いてのご法話会

住職の活動・姿

如来様のお慈悲をお同行にお伝えする使命に生きているか？

- 朝夕のお勤め 如来様のお給仕に怠りないか？
- 布教使活動 ご法義を正確に体得し、お伝えしているだろうか？
- 福祉施設訪問布教 利他行を惜しんではないだろうか？
- 組や教区の活動 末寺として協力的に対処しているだろうか？
- 住職研修、教学ゼミ 怠ることなく勤め励んでいるだろうか？
- 社会的活動 異なる視点、新たな着想の原点を開拓しているか？
- その実態如何

葬式と法事しかしていないのでは？

お聴聞の本堂に目が向いていないのでは？

客殿の“酒と肴の会話”にしか目が向いていないのでは？

全員聞法・全員伝道について

全員聞法・全員伝道という言葉を知っているだろうか？

開かれたお寺になっているだろうか？

お寺は浄土真宗のみ教えを広げようとしているか？

お一人でも多くのお同行のお仲間を増やしていこう、

共に育っていこうではないかとする姿勢にあるか？

住職はどうか？

総代はどうか？

ご門徒の皆さまおひとりおひとはどうか？

聞くことの素晴らしさ

ETV特集選 国際ピアノコンクール優勝までの全記録「ピアニストの贈り物」(09/11/20放送、10/2/11再放送)

- 辻井伸行・盲目20歳のピアニスト
- 辻井さんは、オーケストラの指揮者の息遣いに合わせる
- 以下は、指揮者が漏らした感想である。

全く、非の打ちどころがない。

辻井さんのコミュニケーションは聞くことで成り立っている

むしろ、健常者よりコミュニケーションが容易な程だ。

浄土真宗の救いは、如来様のお喚び声を聞くことで成り立っている。

- 如来様のお喚び声を聞き留めることができなくてはなんとしよう。



「聞く」とは何か

「聞其名号」とふは、本願の名号をきくとのたまへるなり。

きくといふは、本願をききて疑ふころなきを「聞」といふなり。

また、きくといふは、信心をあらはす御のりなり。

(解説)

(Ref『一念多念証文』註釈版聖典P678)

1. 聞の第一釈(前段) きくというのは、私のはからいなく頂戴することをいう。私のはからいのない状態を信心というのだから、聞の第一釈は、“信を以て聞をあらわす”という。

2. 聞の第二釈(後段) 阿弥陀如来の仰せを疑いなくお聞かせに与ることがそのまま他力の信心であることをいう。

聞の第二釈は、“聞を以て信をあらわす”という。

(Ref 梯實圓「一念多念文意講讚」)

3. 「のたまふ」のはどなたか、 どなたの「御のり」か